

ロータリー月例報告 2022年8月(2022年9月提出)：

2021-22年度 地区補助金奨学生

スウェーデン・ヨーテボリ大学

和田 哉恵

新学期が始まり、8月末からインターンシップが始まりました。11月初めまでの約2か月間、社会学・労働科学科にて Integration(難民・移民またその子どもが新たに暮らす国の文化、教育、仕事に慣れ、社会参加出来るようになるプロセスのこと)に関わる複数のプロジェクトを行っている教授の下で研究アシスタント(インタビューの要約、Nvivoなどのソフトを用いたコーディング、文献調査など)を行います。

最初の1,2週間は新しい環境・業務に慣れることと、週2回通っているスウェーデン語教室との両立になかなか苦労しましたが、最近では少しずつ自分にとって心地いいワークライフバランスが保てるようになってきたかなと思います。Integrationに関する分野は一見ジェンダーとはかけ離れた研究分野に見えますが、実はジェンダーによる違い(イスラム系男性への差別、女性の就職率の低さ等)も大きく、これまで学んだ理論的視座が活かされる機会もとても多いです。現在は、教授がこれまで行った Integration をサポートするチャリティ団体や社会的企業団体とのインタビューの要約を行っています。実際に移民の就労や語学教育支援を行う方々の言葉や想いに触れ、色々と考えさせられることが多いです。

また、研究以外では9月初めにウプサラにて留学中の重井さんにお会いすることが出来ました。2年ほど前から大学院受験や奨学金申請に関することで相談させていただいていたので、あまり初めてお会いしたという感じはしませんでした。ウプサラの市街地や大学図書館、大聖堂やお城、植物園まで案内して頂いて、短時間でしたがウプサラの町を満喫することが出来ました。



写真：ウプサラ大聖堂の前での記念写真。

さすがスウェーデンで最も古い大学のある町ということで、歴史ある建物や資料が沢山残っていて、ヨーテボリとはまた異なった雰囲気です。特に街の中心的存在の大聖堂は圧巻でした。案内して頂きながら、スウェーデンの博士課程の様子や語学習得に関するお話、また沢山のアドバイスも頂きました。また、帰りのストックホルムでの乗り換え時間の中に、9月からイギリスで修士課程留学を開始する北海道大学の後輩ともたまに会うことが出来、新学期が始まったばかりで少し大変な時期でしたが、活力をチャージできた1日でした。

重井さん、お忙しい中時間を取って頂き本当にありがとうございました！